

8月も日本各地の異常気象で大変な被害が出ていますが皆さんの所ではどうでしょうか、夏バテと共に健康には気をつけてください。

(もっとも気象には異常気象と言うものは無く長い目で見ると、有史以前からもっと大きな気象変動が続いていると言う気象学者もいます。)

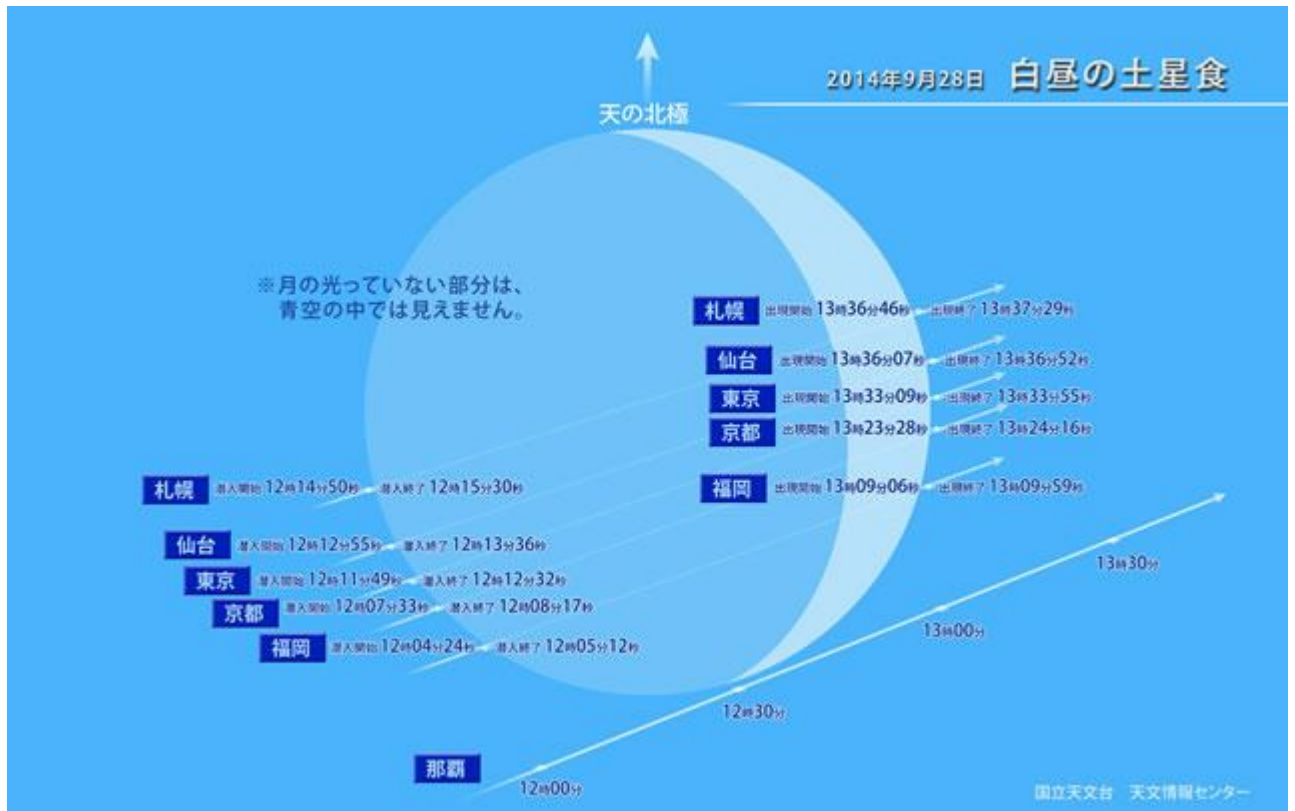
さて9月のイベントとしては8日の中秋の名月、昔からこの時期に収穫された、里芋や団子を供えて15夜お月さんを観賞するという行事ですね、平安時代に中国から伝わり貴族の行事として定着したみたいですが、直接月を観ずに、水を注いだ杯や池に映って揺らめいている月を観賞していたみたいですが、かなり気持ちに余裕のもてる時代だったようですね。



今月比較的観望に適している惑星は火星と土星になります、火星はてんびん座からさそり座・へびつかい座へ移動していきます、土星はてんびん座にとどまっております、共に日が暮れた夕方から西の空に一番星として見えて来ます。月末頃までこの様な並びが続き27日から30日にかけて土星・火星・さそり座のアンタレス星の近くを上弦の月が近づき、並列する景観に感嘆するのではないのでしょうか。又数日間火星とアンタレスが双眼鏡の同一視野に入ります、どちらも赤い星なので明るさと赤さの違いを比べてみてください。



28日には月が土星を隠す土星食がありますが此方は12時頃の明るい中で起こるので肉眼での観察は難しいと思います、天体望遠鏡等の機器を使えば見えるので是非使用出来るのであれば観察して見てください。



まだまだ暑さの残っている時期ですが徐々に賑やかで明るい星が多い夏の星座から明るい星が無くなる寂しい秋の星座に変化して行きます。

夏に見られる天の川は基本的には我々の銀河系の中心方向を見ているので星が多く雲状にみえているのです。

秋の星空は中心方向とは90度離れた銀河の星が少ない所をみています、したがって銀河系外の深遠な宇宙を覗くことが出来ます、近い所では銀河系から200万光年ほど離れた所にあるアンドロメダ座にあるアンドロメダの大星雲、肉眼でも暗い所で目を凝らすとボンヤリした雲状に見えます、形状的には我々銀河系と同じ渦巻き星雲ですが大きさは銀河系の倍以上の規模だそうです、またこの星雲とは40億年後に衝突してその数億年後には一つになってしまうそうです。(衝突といっても星と星との距離が離れているので星同士が衝突する可能性はあまりなさそうです)

人類がその頃まで生きていたら渦巻き星雲が空いっぱい近づいて来る所が見える事でしょう。

また数十億光年から百数十億光年先の宇宙が生まれた頃の銀河もこの空には有ります、次回にはその話もしようと思います。

